



山陰鉄道発祥の地

10月14日は鉄道記念日です。山陰では1902（明治35）年11月、御来屋一境港間でその産声を上げました。

鉄道にとって必要不可欠な整備所はここ米子にその場所を求め、後藤総合車両所は1918（大正7）年、現在地に置かれ今に至ります。ものづくりの街の産声をあげます。

後藤車両所は車両の整備だけではなく、車両を作ることもします。いずれにせよ沢山の部品や材料の調達が必要で、その供給源として米子市の製造業は発展していきました。

米子市は夜見の鉄工団地をはじめとして、ものづくりにかかわる多くの会社があり、それが米子市の経済や生活の基盤を支えているといっても過言ではありません。そして、その製造現場を長年支えているのは米工の卒業生なのです。先輩たちの頑張りが信頼を産み、「後輩（米工生）なら仕事を任せられる」と沢山の求人が来ます。

これからも米工から沢山の優秀な生徒たちを送り、そして「米工魂」を発揮して米子のものづくりを支えてくれることと思います。

最後に、皆さん私を「鉄チャン」と勘違いされているようなのですが、多少の知識はあるものの、ごく平凡な一般人であることをここで述べさせていただきます。



在りし日のブルートレイン出雲（2006年撮影 日野川鉄橋）

遠藤郁幸



（いや～やっぱりキハ181系の屋根のラジエターは最高！っていうか鉄ちゃんバレバレ！？）